

■授業の目的及び到達目標

教育・発達心理学Ⅱは、「発達心理学」を中心に行います。児童生徒の理解に必要な発達心理学について学び、より良い教育者になることを目指します。到達目標は、教員採用試験に対応できる発達心理学の知識を身につけることと、教員としての態度やプレゼンテーション力を身につけることです。

■授業計画

- 1 発達心理学とは
子どもが大人になってゆく過程でどのようなメカニズムが働いているのかを解き明かす発達心理学について今後何を学ぶのかも含め概説します。
- 2 身体と運動機能の発達
人間の運動機能の特殊性、身体発達における個人差と性差、身体・運動機能の発達と精神発達等について学びます。
- 3 知覚の発達
知覚とは、ものを見る仕組み、ものを聞く仕組み、知覚発達について学びます。
- 4 記憶能力の発達
記憶の仕組み、記憶の促進に関わる主な要因、乳児期の記憶の発達、幼児期の記憶の発達、老年期の記憶について学びます。
- 5 I. 小テスト① II. 言語の発達
I. 第1回～第4回までの小テストと解説及び振り返りを行います。II. 話し言葉の起源、前言語期、話し言葉期、書き言葉期、発声に関する障害について学びます。
- 6 思考の発達
ピアジェの認知発達理論、言語と思考、創造的思考、文明と思考について学びます。
- 7 知能の発達
知能の概念、知能の測定、新しい知能研究の流れ、知能の測定要因、知能の発達、知能の両極性について学びます。
- 8 自己の発達
自己とは、自己の存在への気づき、自己認知の過程と展開、比較による自己と自己認識の深まり、自己認識の深まりとアイデンティティの確立等について学びます。
- 9 社会性と情緒の発達
子どもと情緒・感情：「今ここ」の気持ち、社会的な存在としてのヒト、社会性と社会化、情緒と社会化、社会化の担い手、向社会性：自己犠牲の感情について学びます。
- 10 I. 小テスト② II. 発達心理学の誕生と発展
I. 第5回～第9回までの小テストとその解説及び振り返りを行います。II. 児童心理学から発達心理学へ、検査ツールの開発と発達観の変化、近代心理学から発達心理学へ、ヒトの発達における敏感期、動物行動学から愛着理論へ等について学びます。
- 11 発達心理学の方法
科学的研究と研究倫理の必要性、発達研究の方法、発達研究のデザインについて学びます。
- 12 発達の理論
発達とは何か、発達段階、発達の理論について重要なものを整理して学びます。
- 13 発達と障害
発達障害とは何か、主な発達障害とその特性、障害児者の発達支援とその視点について学びます。
- 14 I. 小テスト③ II. 遺伝と環境：相互作用性
I. 第10回～第13回までの小テストと解説及び振り返りを行います。II. 個性の萌芽、乳児の個人差、個性の発達、発達のとらえ方の変遷、遺伝と環境の発達への寄与、言語獲得における相互作用、知能の伸びにみる相互作用、コミュニケーションにおける相互作用について学びます。
- 15 学期試験及びフィードバックとしての解説
発達心理学の理解を問う学期試験を行い、フィードバックとしての解説を行います。

■授業の方法

基本的には、教科書のテーマに沿って講義を行います。受講者の理解の促進のために、なるべく現在の学校での問題など具体的な事例を多く取り入れながら授業を行いたいと考えています。また、各自の考えを深めるために、積極的に質疑応答の形式を取り入れます。毎回の講義資料は事前に Blackboard に掲載します。

そして、授業項目に関して、各学生が興味をもった内容について発表することを求めます。

■予習・復習

予習は、教科書の学習予定の章を事前に読んで、自分の考えをまとめておくこと。また、復習では、学習した章を再読し、ノートや Blackboard の講義資料を見直して、重要項目をまとめておくことで記憶が定着しやすくなります。試験前に一気に覚えようとせず、毎回コツコツと予習復習することで、発達心理学への理解が深まります。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

成績評価は、学期試験 70%、授業参加度及び発表内容 30% の割合で評価します。なお、欠席日数が 1/3 を超える場合は単位を与えられません。

■教科書・参考書

教科書：発達心理学 福本俊・西村純一 編 ナカニシヤ出版
参考書：やさしい発達心理学 都築学 編 ナカニシヤ出版

■関連する科目

青年心理学、臨床心理学、学校心理学、教育心理学等心理学の領域は相互に関連します。